

総務教育常任委員会資料

(平成30年12月17日)

【項目】

ページ

- 1 鳥取県×日本財団共同プロジェクト顧問団会議の開催結果について
【とっとり元気戦略課】・・・別冊
- 2 伸びのびトークin若桜町の開催結果について
【県民課】・・・ 1
- 3 移住定住の促進に向けた取組状況について
【とっとり暮らし支援課】・・・別冊

元気づくり総本部



伸びのびトーク in 若桜町の開催結果について

平成30年12月17日

県 民 課

県民の皆様（住民・NPO法人・経済団体・地域活性化等に取り組む団体等）と行政関係者等が、その地域が直面する課題などについて意見交換を行う「伸びのびトーク」を若桜町で開催しました。

1 日 時 平成30年12月9日（日） 午前11時から午後1時まで

2 場 所 ダイニングカフェ新（若桜町若桜）

3 参加者 若桜町若者プロジェクトメンバー 6名

（13名） 町内若手事業者 1名

若桜町長、副町長、ふるさと創生課長

知事、元気づくり総本部長、東部振興監

4 意見交換のテーマ・主な意見等

テーマ 「若者が活躍できる町づくり（子育て環境、氷ノ山振興等）」

〔主な意見等〕

（子育て環境）

- ・若桜から鳥取までの交通費の負担が課題であり、高校進学を機に、鳥取市に引っ越す家庭や子どももいる。（若桜～鳥取間の定期代：20,740円/月。うち7,000円/月を町が補助）
- ・小中学校の生徒数が少なく、部活動・クラブ活動では、団体競技が出来なくなるなど、選択の幅が限られてきている。また、合同チームで練習する際も、送迎による親の負担が大きい。
- ・若桜町内には小児科の病院がなく、予防接種も町外へ行かなければならない。出張診療等でも対応できないものか。

（氷ノ山振興）

- ・わかさ氷ノ山インフォメーションセンターが7日にオープンし、通年のコミュニティスペースが出来たが、夏場の氷ノ山の活用策について考えていけないといけない。美しい星空、キャンプスペース等はあるが、ゲレンデは活用されておらず、マウンテンバイク等の核となる取組が必要である。
- ・流行の自転車やシャワークライミング、または岩美町の海から若桜の山まで使った大会誘致等も考えられる。素材を繋げることも必要だし、案内所や人材育成も必要となる。

〔知事発言〕

- ・通学問題は県内山間部共通の悩みであり、他地域・団体からも声を聞いており、難しい課題である。これから、現状の調査など協議していくこととなる。県も何らかの支援のあり方を検討していく。
- ・夏場の氷ノ山の活用はよい着眼点である。最近人気の体験メニューである星空観察会やグランピングは、氷ノ山で取り組める素材がある。氷ノ山は、関西に一番近いリゾート地を目指すこともできる。県も町と一緒に頑張って応援していきたい。

【意見交換の様子】



○伸びのびトークの開催状況

平成30年度：3回

伯耆町（6/10）・大山町（9/1）・若桜町（12/9）

平成29年度：5回

北栄町・湯梨浜町・南部町・日南町・江府町

平成28年度：1回、平成27年度：5回

〔若桜町での過去の開催概要〕

開催日：H24.5.29、会場：お座敷列車他

テーマ：未来をつくる地域の女性たち

